



●さわると火傷(やけど)するサンゴ —アナサンゴモドキの仲間—

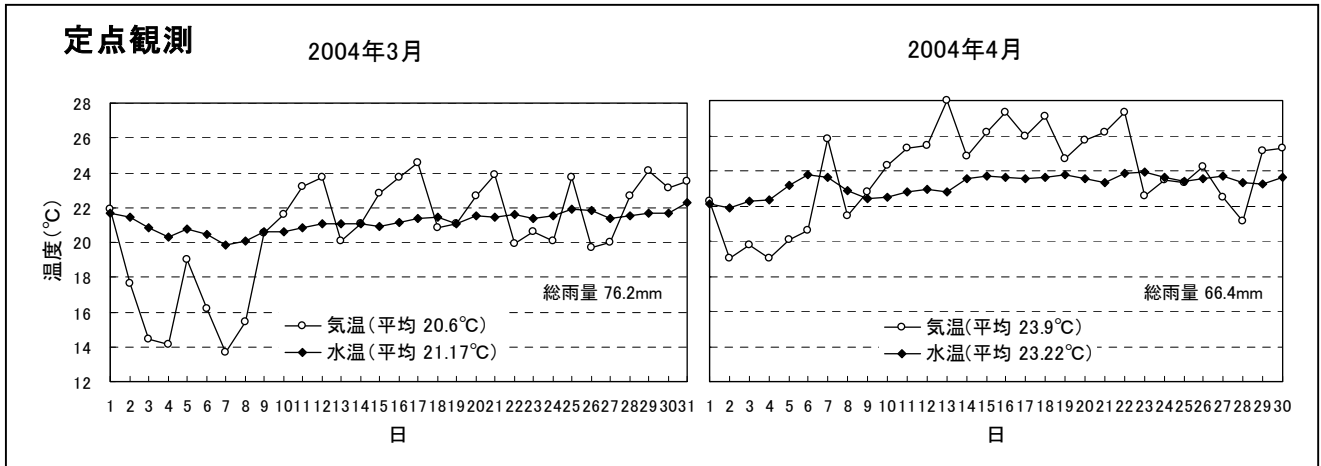
梅雨に入り、蒸し暑い日が続いています。海もだんだん温かくなってきて、水温が 24℃ をこえる日も増えてきました。これから、海で泳ぐ機会も多くなっていくでしょう。そこで今回は、海の中で気をつけなければならない生き物の一つをご紹介します。

アナサンゴモドキの仲間は、枝状のものや岩に張りついている形のものなど、阿嘉島のまわりには、少なくとも 5 種類生息しています。この生物は、ダイビングをする人たちの間では、わりと有名なのですが、それ以外の人、特に内地からやってくる人たちには、ほとんど知られていません。ガンガゼやオニヒトデは体中にトゲがあり、見るからに危険な生物ですが、アナサンゴモドキには鋭いトゲもなく、岩にくっついて動かないので、あまり注意されることがありません。けれども、うっかりさわると電気が走ったような痛みを感じます。その痛みが、火傷に似ているからでしょう、アナサンゴモド

キの仲間は、英語で「ファイヤー・コーラル(火のサンゴ)」と呼ばれています。アナサンゴモドキは、毒のある刺胞をもっていて、さわったときにこれで刺されるのです。アナサンゴモドキに刺されても死んでしまうようなことはありませんが、1~2 週間はさわったところにあとが残りますから、十分に注意して下さい。

アナサンゴモドキは刺胞を持っているので、刺胞動物の仲間になります。ミドリイシなどのイシサンゴ類も同じ刺胞動物ですし、姿もよく似ているので、多くの方は、アナサンゴモドキはイシサンゴ類と近い仲間だと思っている人がいますが、分類学的にはイシサンゴ類はイソギンチャクの仲間(花虫綱)、アナサンゴモドキはヒドラの仲間(ヒドロ虫綱)という比較的離れたグループに属しています。けれども、両方とも体内に藻類(褐虫藻)とかたい骨格をもっていることから、「造礁サンゴ」という、生き方をもとにくられた 1 つのグループに入れられるため、このような誤解がうまれるのです。

それでは、どこか違うのでしょうか。詳しくお話するとたくさん違いがあるのですが、今回は 1 つだけ、“繁殖の仕方”を紹介します。イシサンゴ類は、皆さんも知っているように群体が卵や幼生を産んで増えていきますが、アナサンゴモドキは、まずクラゲを産み出し、そのクラゲのもっている卵から増えていきます。つまり、一生の中でクラゲの時期があるかない



かが、大きな違いなのです。去年の6月にマ
ジャノハマで初めてヒメアナサンゴモドキのク
ラゲを見ました。とても小さく、傘の直径が 0.8



～1.0mm ほどのクラゲです。マジャノハマには
ヒメアナサンゴモドキの大きな群体がたくさん
あり、それがほぼ同じ時刻に一斉にクラゲを
産み出したので、海の中はクラゲだらけになり、
まるで粉雪の降りしきる中を進んでいるよう
でした。満月の4日前でインサンゴの産卵調
査を行っていた時でしたが、これまでの数年間、
産卵調査中にアナサンゴモドキのクラゲを見
たことはなく、たまたまその日にクラゲを出
したのか、インサンゴと同じように月の満ち欠けと
何か関係があるのか、まだわかりませんが、も
しかしたら今年も同じ光景に出会えるかもしれ
ないと期待しています。皆さんも、もしアナサ
ンゴモドキのクラゲの放出を見ることがあつた
ら、ぜひ研究所に知らせて下さい。

●阿嘉島の海より

ゴールデンウィークも終わり、沖縄は梅雨に
入ったようです。水不足の座間味村にとって

は夏の観光シーズンまでに少しでも多くの恵
みの雨を期待したいところです。

さて、今年もいよいよサンゴの産卵の時期
が近づいてきました。産卵に向けてこれから
研究所も忙しくなります。ダイビングショップな
どもサンゴの産卵を見たいというお客さんか
ら問い合わせがきていることでしょう。という
ことで、恒例のサンゴの一斉産卵日の予想です
が、これから6月に向けて海水温が順調に上
がっていけば、今のところ6月3日～5日あ
たりではないかと予想しています。夜の10時
半から11時頃にマジャノハマ(阿嘉ビーチ)な
どに行けばシュノーケリングでも十分見ること
ができますので、興味のある人は行ってみて
下さい。

それから、6月28日から7月2日まで
沖縄コンベンションセンターで国際サン
ゴ礁シンポジウムが開催されます。4年に
1回、世界中のサンゴ礁研究者が一同に会
して開催されるサンゴ礁の国際学会です。
それが今年には沖縄で開かれます。もちろ
ん、阿嘉島臨海研究所も参加しますが、6
月30日に開催される公開シンポジウムで
は、阿嘉島から照喜名定盛さん(元阿嘉小
中学校校長)、金城忠彦さん(座間味村漁協
組合長)、垣花薫さん(あか・げるまダイ
ビング協会会長)が慶良間のサンゴ礁につ
いて発表することになっています。参加費
無料でだれでも入れますので、みなさん
も聞きに行ってみてはどうでしょうか。
詳しくは研究所までお問い合わせ下さい。